

五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集

石 田 遺 跡

～飯詰小学校食堂・体育館
増築にかかわる事前調査～
(第一次発掘調査概報)

平成6年5月(1994)

青森県五所川原市教育委員会

例 言

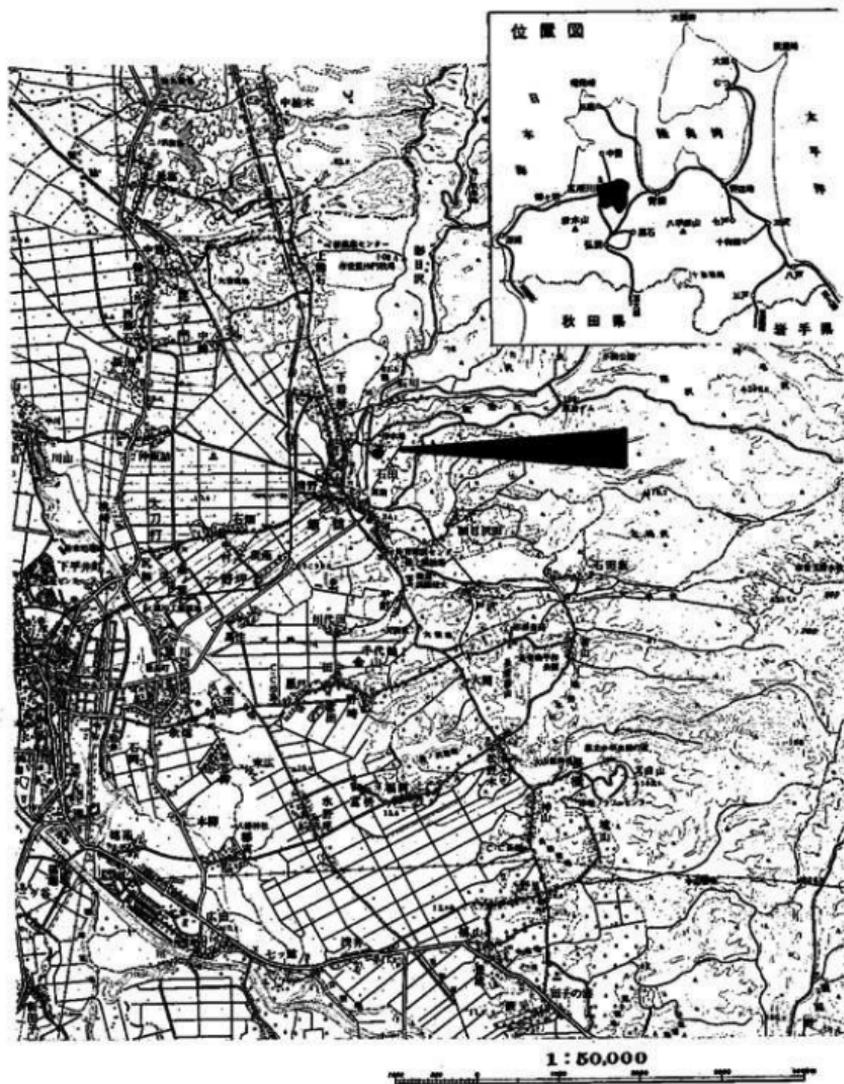
- 1) この概報は、五所川原市教育委員会が実施した『石田遺跡』の一（飯詰小学校の食堂・体育館増改築にかかわる）一 事前調査の記録である。
- 2) 『石田遺跡』は、遺跡番号(05044)として登録された古代・中世の遺跡であって周知の遺跡である。（五所川原市史一史料編1に記載P79による）
- 3) 発掘調査は、平成6年（1994）5月28日より同年6月4日にわたって実施された。
- 4) 本調査のセクション図・平面図は、調査員小山英治が作成した。縮尺は100分の一、及び20分の一に統一してあるが、縮尺の便を考慮して図面にはスケールを入れてある。
- 5) 土色の観察にあたっては、標準土色帳（新版）を利用した。
- 6) 他の一切は、（発掘指導・写真撮影・遺物の分類等）新谷雄蔵が担当した。
- 7) 出土した遺物の総ては五所川原市歴史民俗史料館に保管し市民の啓蒙に資する。
- 8) 青森県文化課の三宅徹也氏には、発掘について種々ご指導を賜った。ここに記して謝意を述べる次第である。

目 次

◆表紙	
◆序文	
◆例言	
◆目次	
【1】発掘要項	1
第X図 五所川原市管内図→遺跡付近地形図	2
【2】グリッド・トレンチの設定について	3
第1図 食堂・体育館予定地発掘区、平面図（A・B地区）	4
（付セクション図・注記）	
【3】発掘の経過（A地区・B地区）	5
第2図 A地区、Aグリッド平面図	6
第3図 （BグリッドE壁・AグリッドW壁）セクション図	7
【4】出土遺物	8
第4図 A地区（A1、A2 Tr）遺物分布図	8
第5～7図 出土遺物の拓影図	9
【5】出土遺物の年代（a～g）	12
【6】小結	13
(a) 検出した遺構について	13
(1) 溝状遺構	13
(2) 焼土	13
(3) 柱穴状 pit	13
(b) 出土した遺物について	14
※写真図版1～14（写真図版14はカラー）	15

【1】発掘要項

- 1) 発掘主体者 五所川原市教育委員会
- | | | |
|----|--------|-----------|
| 代表 | 教育長 | 釜 薮 裕 |
| | 教育次長 | 小 野 幸 郎 |
| | 生涯学習課長 | 時 田 武 則 |
| | 係 長 | 荒 谷 初 紀 |
| | 主 任 | 其 田 昭 仁 |
| | 〃 | 三 橋 久 美 子 |
- 2) 遺跡の所在地 青森県五所川原市飯詰字石田175-1~180-2
- 3) 発掘担当者 日本考古学協会会員 新 谷 雄 蔵
- 4) 調 査 員 五所川原市文化財パトロール指導員 小 山 英 治
- 五所川原市大字松野木字花笠16-84
- | | | |
|---------|---------|---------|
| 長 尾 秀 幸 | 長 尾 郁 子 | 長 尾 き そ |
| 小笠原 喜美枝 | 長 尾 ツギエ | 長 尾 テ ッ |
- 6) 発掘方法 グリッド法、トレンチ法の併用による。
- 7) 発掘面積 79.75平方m
- | | |
|-----|-----------|
| A地区 | -31.75平方m |
| B地区 | -48.0 平方m |



【2】グリッド・トレンチの設定について (第1図)

1) A 地区

- a) 食堂建設予定地をA地区・旧体育館及び、その予定地をB地区として、大きくA・Bの両地区に分けた。
- b) A地区の物置小屋の前にAトレンチを設定し、東西4m×南北2mをA1トレンチとした。また、東西4m×南北2mをA2トレンチとした。このA1トレンチとA2トレンチとの間に約1mのベルトを設けるようにした。

2) B 地区

- a) 旧体育館の南側に、南北2m×東西8mのトレンチを設定し、B1トレンチとした。また、南北2m×東西8mのトレンチを設定し、B2トレンチと呼称することにした。

【3】発掘の経過

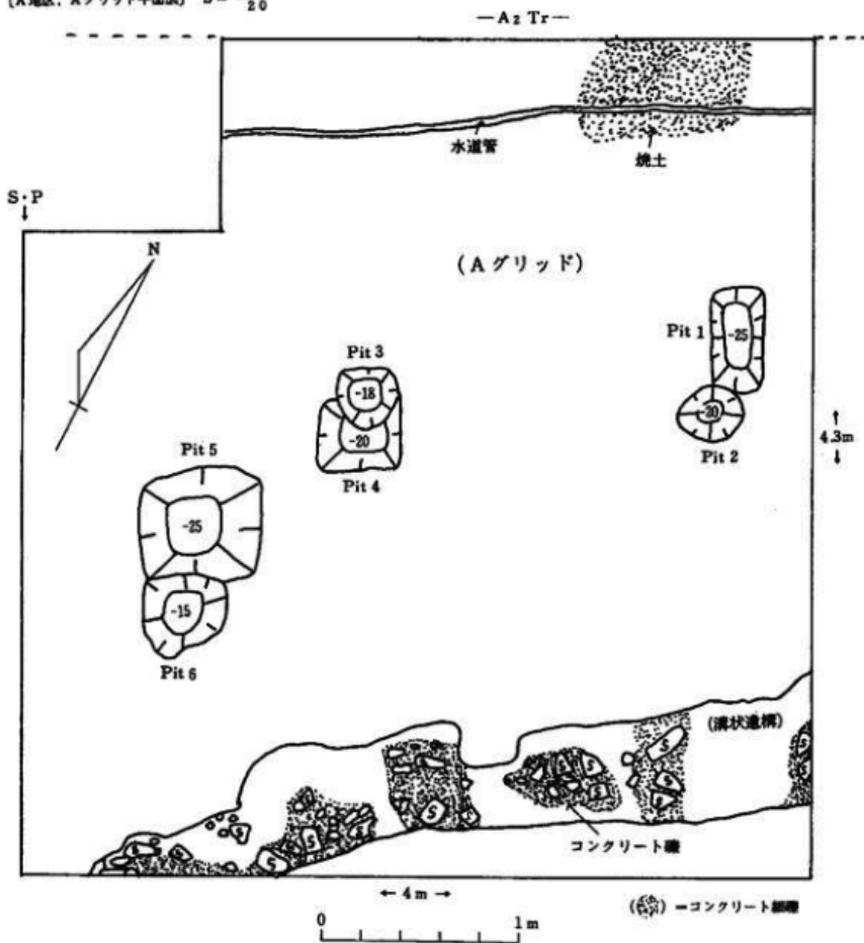
1) B 地区

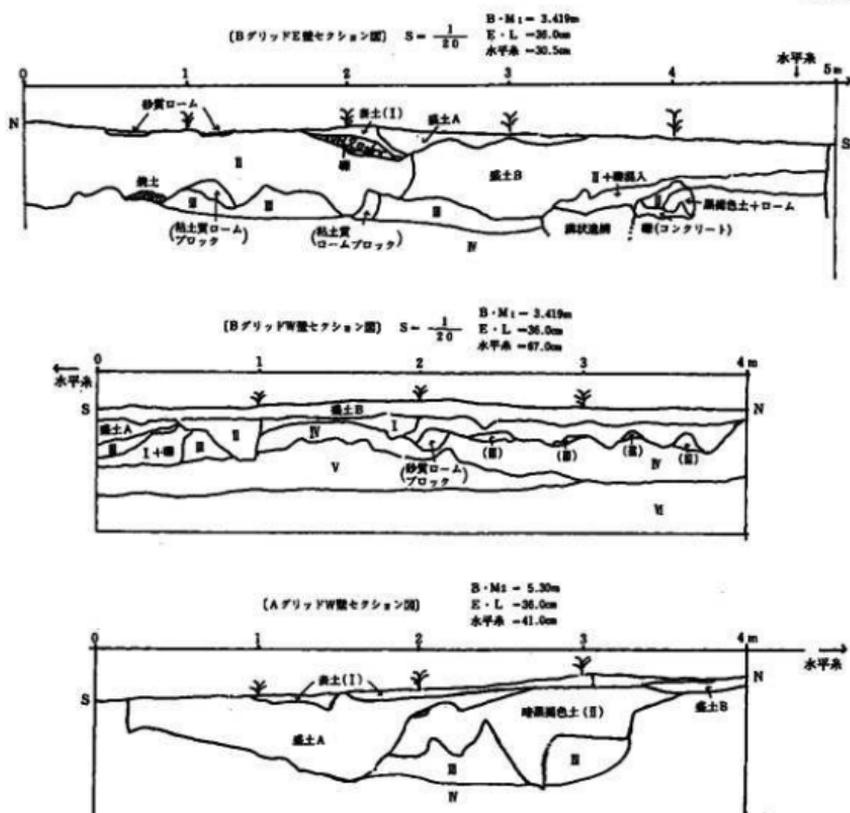
- a) 発掘作業は、B地区のB1・B2トレンチから実施した。発掘の作業が進むにつれて、極く新しいと観察される溝状遺構が検出されたが、遺物の出土も無く、トレンチを完掘したが、特に問題はなかった。
- b) 但し、B1トレンチの東側の南壁下において、半円形の落ち込みがあったので、Bグリッドを設定して発掘を進めたのであるが、この落ち込みは、比較的新しい溝状遺構（風倒木?）であったので、遺物の出土も無く特に問題はなかった。
- c) さらに、地層を調査する目的で、T・P1～T・P6を設定して調査したが、新しいと思われる溝状遺構が検出されるのみであった。これらのT・P1～T・P6の調査によって（第1図・第3図参照）基本層序が次第に分かってきた。

2) A 地区

- b) B地区を終わって発掘作業は、A地区の作業に移った。先ず最初にA2トレンチの発掘作業に入る。A2トレンチでは、ベルトの東側の南壁に1.4mにわたって焼土のカッチングが観察された。
- e) その為、第1図に示すとおり、Aグリッドを設定して発掘作業を進めたのであるが溝状遺構（第2図・写真図版7～9・11参照）や柱穴状 Pit（第2図参照）は、方形～長方形の柱穴が古く、円形の柱穴が新しいように観察される。即ち円形の柱穴が、方形～長方形の柱穴を破壊しているからであるが、両者とも比較的新しいものと観察される。
- f) なお、A1・A2としたトレンチからは、次の出土遺物があった。次に出土した遺物を分類して述べる。

[A地区, Aグリッド平面図] S = $\frac{1}{20}$





※BグリッドW壁・E壁セクション注記 (W壁・E壁共通)

- 1 a 盛土A—明黄褐色土、粘土質ロームで、盛土である。
- 1 b 盛土B—黒褐色土、粘土質ロームと黒色土の混合層で、粘性・湿性ともにある。
- 2 黒褐色土—表土、粒子が細かくシルト状で、粘性・湿性ともにやや有る。
- 3 暗褐色土—1層と2層の混合層で、2層の混合が優勢である。粘性・湿性がなく、粒子が細かく、サラサラしている。
- 4 によい褐色土—2層とロームの混合層で、粒子が細かく、粘性・湿性ともに中程度である。
- 5 明褐色土—粘土質ロームで、粒子細かく、粘性・湿性ともに有る (地山)。

※AグリッドW壁セクション注記

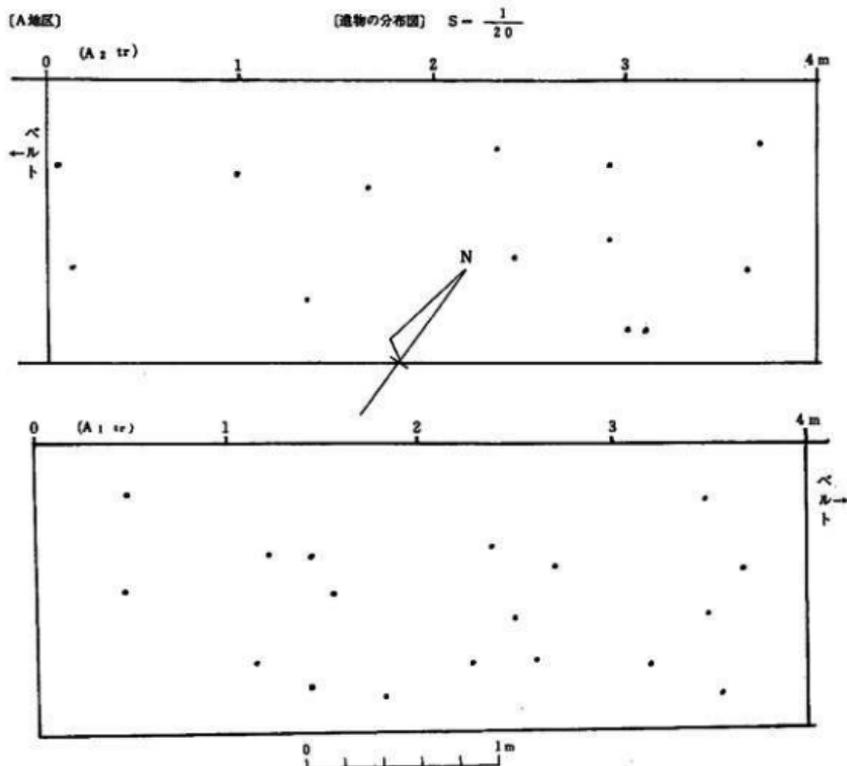
- 1 盛土A—明黄褐色土、粘土質ロームで、盛土である。
- 1 盛土B—黒褐色土、粘土質ロームと黒色土の混合層で、粘性・湿性ともにある。
- 2 黒褐色土—表土—粒子細かくシルト状で、粘性・湿性がともにある。
- 2 暗褐色土—漸移層で、ローム層と1層の混合層である。粘性・湿性ともに中程度である。
- 3 明黄褐色土—ローム層で、粘性・湿性ともにあり、粒子細かくシルト状である。
- 4 明黄褐色土—ロームが優勢で、粘土質ロームで、細かい礫(径5~8cm)が混入する。

【4】出土遺物 (第4図・第5図～第7図、写真図版13～14)

(出土遺物)

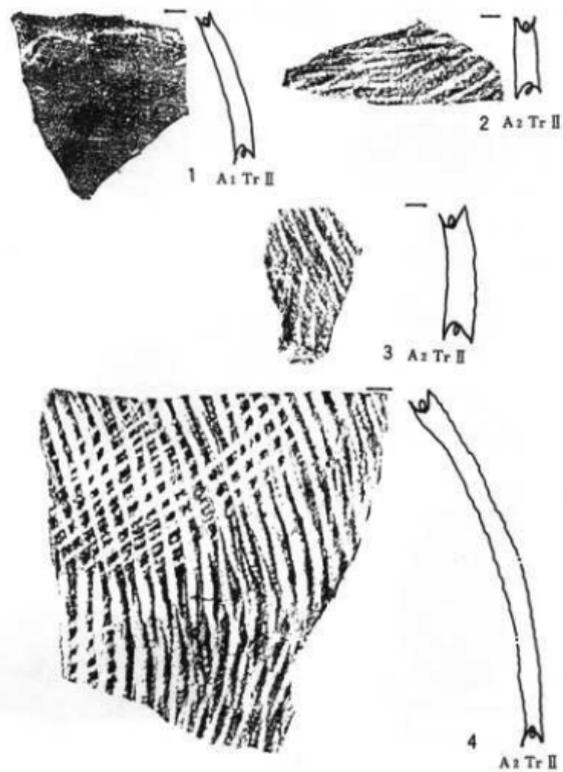
- a) 縄文土器-3、 b) 擦文土器-1、 c) 須恵器(長頸(細口)壺)-1、
 d) 須恵器(変形)-4、 e) 瓦質土器-1、 f) 陶器-1、 g) 土師器
 (环形)-4、 h) 土師器-(変形)-16 合計31片

第4図



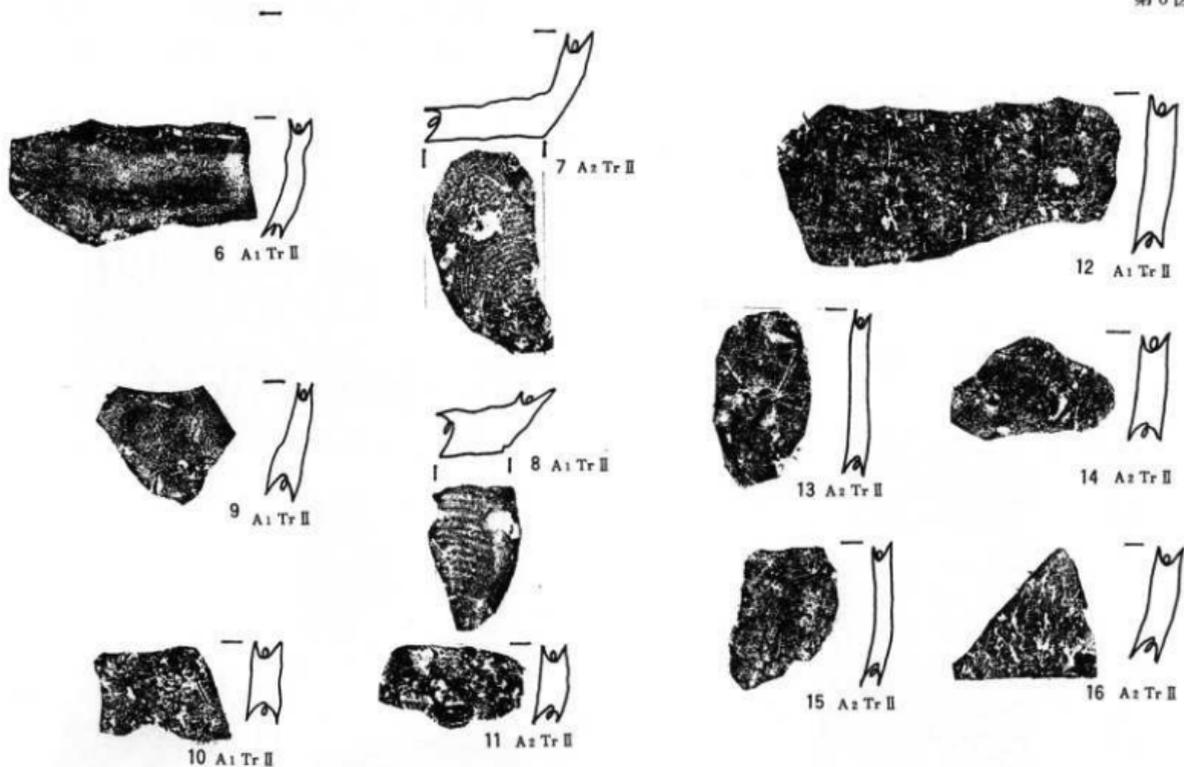
(註) (A₂ tr)の0と(A₁ tr)の4 mは接合する)

(B地区は、出土遺物がない)



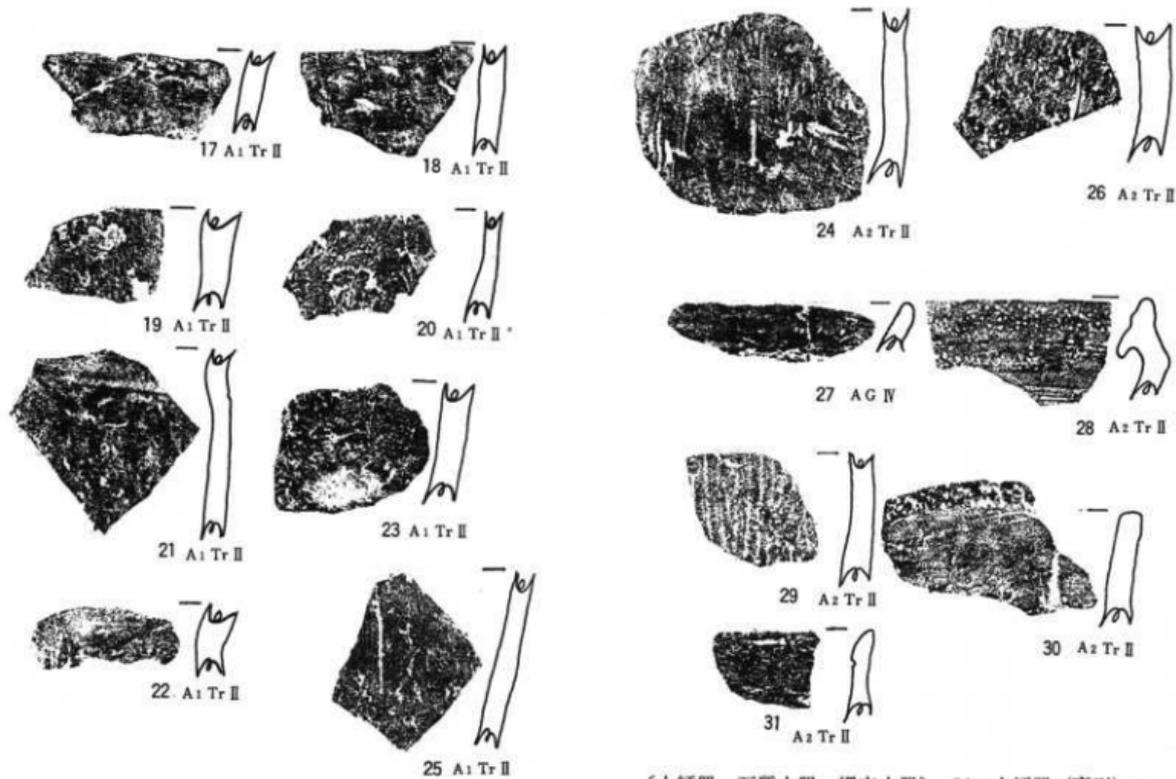
[須恵器] 5→変形

[須恵器] 1→長頸(細口)壺, 2・3・4→変形
(註) 番号は、写真図版14と一致する。(以下も同様)



〔土師器〕 6・9・10・11→變形，7・8 环形

〔土師器〕 12~16→變形



〔土師器〕 17~23・25→變形

〔土師器・瓦質土器・繩文土器〕 24→土師器（變形）—
26→擦文土器，27→瓦質土器，28→陶器，29~31→繩文土器。

【5】出土遺物の年代

- a) 縄文式土器……………形式名不明-1、十腰内Ⅰ～Ⅱ群の中間形式（約4000年前）
- b) 捺文土器……………約12世紀頃（古代）
- c)、 d) 須恵器（壺・甕）……………約10世紀頃（古代）
- e) 瓦質土器……………約15世紀後半～16世紀前半（中世）
- f) 陶 器……………現代もの
- g)、 h) 土師器（坏・甕）……………約11世紀頃（古代—平安時代後半のもの）

【6】小 結

(a) 検出した遺構について (写真図版 3～6、7～11参照)

(1) 溝状遺構

- A地区とした食堂建築予定地において、溝状遺構、及び、柱穴状Pitを検出したが、これらの遺構については、比較的新しいものと認められた。即ち、溝状遺構の中には、コンクリートの破片と思われる小片や礫があって、旧校舎の基礎の一部と推定される。
- B地区とした体育館増改築の予定地においても、A地区と同様、溝状遺構を検出したが、このものも発掘所見では、比較的新しいものと認められる。しかもこのB地区では、遺物の出土が無く、考古学的には、これらの溝状遺構は、問題にならないものと判定されるので図面の作成を見送り写真のみとした。

(2) 焼 土

- A地区とした食堂建設予定地において、A2トレンチの西側よりの南壁において焼土の痕跡を発見した。青森県文化課の三宅徹也氏の指示によって、A1トレンチを発掘調査し、併せて、A2トレンチを拡張して、4m×4m (東西×南北)のAグリッドを設定し発掘調査した。

その結果、焼土及び、上に示した溝状遺構と柱穴状Pitを検出したのであるが、Pitについては後述する。A2トレンチのカットングで検出した焼土の痕跡は、地床炉(じしょうろ)ではなく、単なる焼土の広がりであることが判明した。即ち、地床炉であれば第Ⅳ層としたローム層を掘り込んでいるはずである。

(3) 柱 穴 状Pit (第2図参照)

- 柱穴状Pitは、全部で6個検出された。このうち円形のもの3個と長方形のもの3個の計6個であるが、このものは、考古学的な見方をすると、円形のPitが長方形のPitを破壊して造られていることが分かる。即ち、2時期にわたって造られたことを示している。これらの柱穴は、いずれも漸移層とした第Ⅳ層を掘り込んでいた。このことから、掘り方もないし、打ち込み柱でもなく、Pitの中に堆積した覆土が極めて新しいものと観察されることから、考古学的には問題にならないものと考えられる。

(b) 出土した遺物について (第4図・第5～7図、写真図版13・14参照)

- 出土した遺物は、全部で31片の出土であるが、総てA地区とした食堂建設予定地の出土で、しかもA1トレンチとA2トレンチ内の出土である。その年代や分類した数等については即ち【4】で示したとおりである。
 - 第4図に示した遺物の出土状況は、まとまりも無く、散布状態であることが分かる。また、出土した遺物の年代等についても縄文時代、古代・中世・現代と一定していないし、A地区としたセクション図を見ても、地層がかなり移動していることがわかる。
- 以上のことから考古学的には特に問題にはならないものと思われる。しかし、現在近くに登録された『石田遺跡』があり、プレハブ校舎の下には、年代不明の遺構もあって筆者自身も確認しているところである。聞くところによると、青森県教育長には、遺跡の保護について重点事項の一つと言われている。今後とも遺跡の保存・保護について、市当局においても格段のご配慮をお願いしたいと念願する次第であります。考古学を志すもの一人としてお願いしたいと思うところであります。

(1994・05・25 文責 新谷)

①



(南方より)

②



(南西より)

③

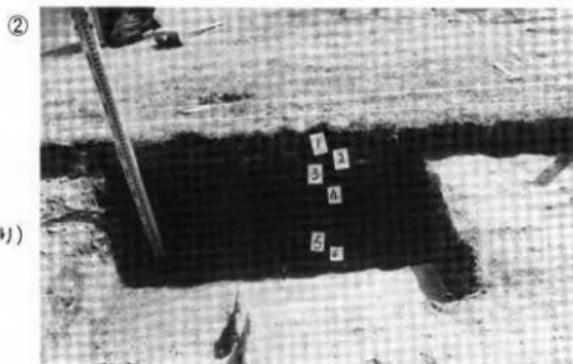


(南東より)

①旧体育館（発掘前の状況（②・③））



(南方より)



(北方より)



(南方より)

①旧体育館 (B地区発掘前の状況), ②T・P₁の層序, ③T・P₂の層序



(西方より)



(西方より)



(西方より)

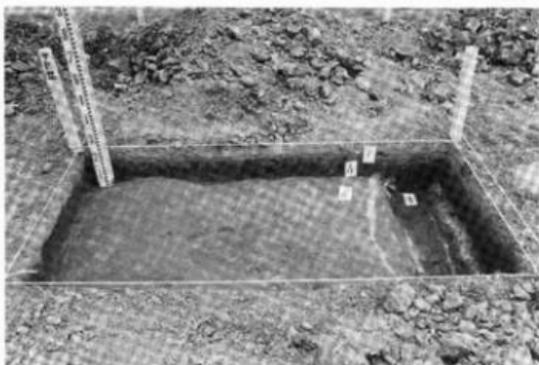
①B₂Trの完掘状況、(溝状遺構が見える)、(②③も同じ)

①



(北方より)

②



(南方より)

③



(南方より)

①T・P₁の層序, ②T・P₂の層序, ③T・P₃の層序

①



(南方より)

②



(南方より)

③



(南方より)

① T・P4の層序, ② T・P5の層序, ③ T・P6の層序



(北方より)



(南方より)



(北方より)

①Bグリッドの発掘中の状況(③を含む)ベース(地山)が見える。②T・P₂の完掘(溝が見える)

①



(西方より)

②



(西方より)

③



(東方より)

①A1tr・A2trの状況, ②A2trとAGridの状況(焼土が見える) ③焼土と柱穴状Pitが見える

①



(西方より)

②



(東方より)

③



(北方より)

①②③AGridの状況 (Pit, 溝, 水道管が見える)

①



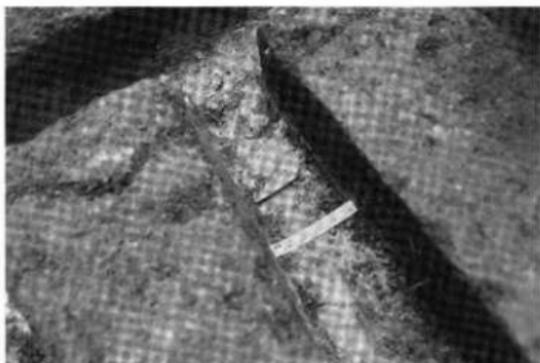
(南方より)

②



(東方より)

③



(東方より)

① AGrid の状況 (②も同じ), ③サブ・トレンチ内の瓦質土器の出土状況

①



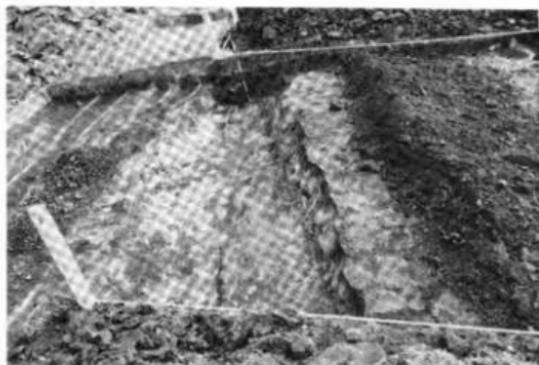
(東方より)

②



(東方より)

③

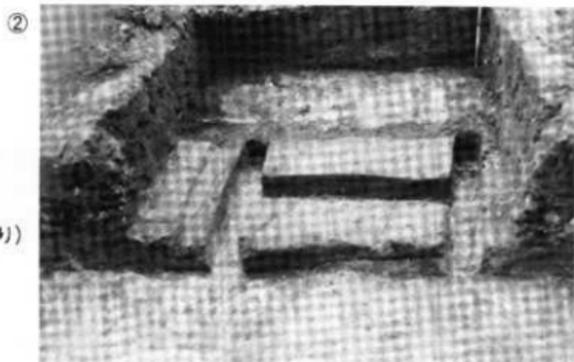


(北方より)

①A 1tr の発掘状況，②③BGrid の発掘状況（溝が見える）



(東方より)



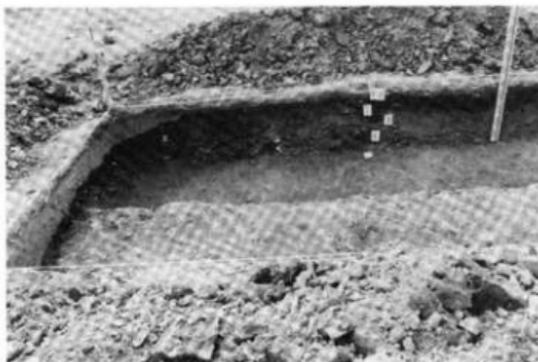
(北方より)



(北方より)

①AGridの状況(盛土が見える),②③焼土の広がりとセクションの状況

①



(東方より)

②



(東方より)

B'

③



(北方より)

①②は、連結する。①②③A地区Btrの状況(層序)

①



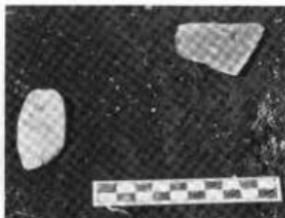
②



③



④



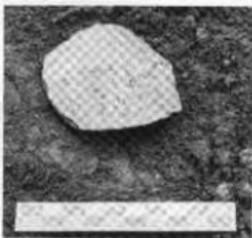
⑤



⑥



⑦



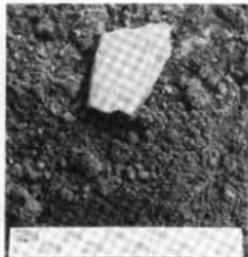
⑧



⑨



⑩



①陶器、②③④⑥⑦⑧⑨⑩→土師器、

⑤⑨→須恵器

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



①須恵器, ②③④⑤⑥土師器, ④縄文土器、⑦擦文, 瓦質土器, 陶器 (⑧⑨を含む)

五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書

第 16 集

石 田 遺 跡 (第 1 次)

- 発行年月日 平成 6 年 9 月 1 日
- 発行者 青森県五所川原市教育委員会
代表 教育長 釜 范 裕
- 住 所 〒 037 五所川原市岩木町12番地
TEL 35-2111 内線 250
FAX 34-3192
- 印 刷 南 西 北 印 刷

